



まだ誰も知らない安心を、ともに。

〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿 1-28-1

www.aioinissaydowa.co.jp

【関東大震災から 100 年】 当社所蔵災害資料をデジタルアーカイブ化した「災害の記憶デジタルミュージアム」を開設

2023年5月1日

MS & ADインシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：新納 啓介）は、新たな防災・減災取り組みの一環として、2023年6月に「災害の記憶デジタルミュージアム」をホームページ上に開設します。

「災害の記憶デジタルミュージアム」では、NHK 財団が持つ最先端のデジタル技術を駆使して、当社が所蔵する 1,460 点にも上る災害図コレクション「旧同和火災コレクション」をデジタル空間上に展示することで、「災害の記憶」に接する機会を広げ、防災・減災の意識向上につなげていきます。

1. 背景

当社は 2021 年以降、災害に備えることの重要性を見つめ直すきっかけにさせていただくため、「旧同和火災コレクション」を寄託先である京都文化博物館や、当社が運営する美術館「UNPEL GALLERY」、博物館での巡回展などで展示し、これまでに延べ 1 万 5 千人にご来場いただきました。

今般、2023 年に関東大震災から 100 年の節目を迎えることから、より多くの方々に閲覧いただく機会を創出し、防災・減災の意識向上につなげ、災害の歴史を後世に伝えるため「災害の記憶デジタルミュージアム」を開設することとしました。

2. 概要

災害の記憶デジタルミュージアムは、より鮮明な画質で閲覧できる 8K 技術^{*1}や、AI 合成音声によるわかりやすい解説等、NHK 財団が持つ最新技術を盛り込んだオンライン上のミュージアムです。ホームページ上に災害の記憶デジタルミュージアムの入り口を設け、無料で閲覧いただけます。

また、タブレットでも閲覧できるため、防災イベントや小学校での防災出前教室等、防災教育にも活用いただけます。

<ミュージアム内観イメージ>



<展示イメージ>



<災害の記憶デジタルミュージアムの特長>

お客さまの アクセス	・オンライン上で「誰でも」「いつでも」アクセス可能
お客さま体験	・8K画質で精緻な描写を体感 ・翻刻文 ^{※2} をもとにAI合成音声で解説 ・8Kの広い色域表現により鮮明に表示

※1 8K技術の導入は10月以降の予定

※2 古文書に記載されている文字を現在の活字に置き換えたもの

3. 今後の展開

2023年10月以降の巡回博物館に8K大型モニターを導入することで、実物を超える色彩・迫力などを体感いただけるようにします。当社は引き続き、歴史的価値のある資料をより多くの方に体感いただくことで、災害の記憶を後世に残し、防災・減災に貢献していきます。

<8K大型モニター設置予定>

開催	会期	展覧会名
国立科学博物館	2023年10月11日 ～11月26日	関東大震災100年企画展

<参考：旧同和火災コレクションの詳細>

18世紀から20世紀初頭に全国各地で発生したさまざまな災害（地震、火災、台風、落雷、津波、噴火、伝染病など）を網羅し、震災・交通の史料を主とし、総点数1,460点にも上る災害図コレクションです。日本で最も大規模で重要な災害関係資料群の一つと評され、2018年に京都府京都文化博物館に寄託され同館の学芸員を中心に調査研究が進められています。

以上

当社は、社会との共通価値を創造し、目指す社会像である「レジリエントでサステナブルな社会」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）を道しるべとし、地域の皆さまに貢献する活動を行ってまいります。



あいおいニッセイ同和損保は、「CSV×DXを通じて、お客さま・地域・社会の未来を支えつづける」ことを目指しています。最先端・独自の技術やデジタル・データの活用、特色あるパートナーとの協業により、お客さま・地域・社会が真に求める新たな価値を提供していきます。また、国内外のあらゆる事業を通じて、お客さま・地域・社会とともに社会・地域課題の解決にグローバルに取り組めます。

